



夕映え (ミラノ)  
116.7 x 90.9 cm  
油彩、キャンバス / 2014

洋画家・木村睦郎は、1936（昭和11）年1月20日、熊本県飽託郡飽田町土河原に8人兄弟の末っ子（六男）として生まれた。JR熊本駅から4 kmほど離れたそのあたりは、現在では熊本

市南区土河原町と呼ばれ、住宅が建ち並んでいる。しかし、木村が幼い頃は、田畑が広がる自然豊かな土地だった。戦後間もなく、木村が10歳の時に亡くなった父親は、かつて教育者であり、

定年退職後は自宅で書と水墨画に親しんでいた。「大きな、大きな、六枚屏風の紙に、何の見本やモデルもなしに十二支を描いたり、掛軸に虎の絵を描いたりしていたその姿を今でも覚えていて」と木村は語る。こうした幼い頃の記憶や、父親から受け継いだ才能が、後に木村を美術の道に進ませたのである。しかし、熊本時代は自分が絵筆を持つようになるとは思いつかなかったようだ。中学卒業後、染色を学ぶために熊本工業高校に進んだ彼はそこで、誕生したばかりの音楽部に入部し、演奏できる楽器がなかったこともあってボーカルを担当。おりしも人気絶頂期の美空ひばりの存在を知ったことで音楽にさらにのめり込み、歌手を目指すようになった。



▲自宅アトリエにて

# 洋画家 木村睦郎

タイトルに込めた“物語的要素”を堅牢で重厚なマティエールで表現する。



ミラノ・ドゥオーモ  
162.1 x 162.1 cm / 油彩、キャンバス / 2013